

太宰府中学校3学年だより

No.21

R5. 3.3

文責:3学年主任

我も人なり・彼も人なり

～最後の入試に向けて、受検する皆さんがうまくいきますように～

いよいよ7日は公立高校一般入試です。124名のうち、46名の仲間が受検します。

この入試に向けて、これまで朝も夜も寝る間も惜しんで勉強してきたことでしょう。楽しいことも我慢して、あと1時間やろう・あと1問解こう・あと1単語覚えよう……と一生懸命頑張ってきたことでしょう。

私立の結果が思わしくなくて落ち込んだり、友達が急に伸びた結果を知ってあせったり、倍率を見て「もうだめだ」と不安になったり……心が落ち着かずそれをコントロールすることにとっても苦勞したことでしょう。

しかし、その苦勞も大事な「受験勉強」の一つです。自分の弱さや甘さと戦うことは、これからの人生に何度となく経験します。この受検を通して、その弱さや甘さを自力で乗り越えることができた人は、立派に「自立」することができます。その自信と強さを胸に、明日は「私が受からずに誰が受かるのか」くらいの「食欲さ」で行ってきましょう。

高校の教室に入れば、私立の時以上に緊張するかもしれません。その時はせひ、上の言葉を思い出して心を落ち着かせましょう。

あなたの席の周りにいる知らない中学校の人も同じ思いをしています。だから、あせることもないし、慌ててることもありません。

試験中に問題が解けなくてもあせらずに、次の問題に進みましょう。

もし、解き方が分からずに困ったときには、以前Oさんが皆さんに伝えたように、一瞬でもその教科の先生の顔を思い出してみるのもいいかもしれません。「陽イオンは陰極に移動するんだ」「この言葉の活用形は連用形ですよ!」と厳しい(?)声が助けになるかも知れませんね。

一足早く進学が決まった人は、46名の仲間が全員うまくいくように、家で祈っていて下さい。

君たちとの約束は、16時まで家庭で過ごすことです。明日、中学校に「お宅の学校の〇〇という生徒が…」という連絡がないようにして下さい。それが、あなたの大切な友達を合格に導くことにつながるのです。

6日は、中学校生活最後の教科授業です。そして、5時間目は、各教室で公立入試事前指導を行います。

受検票と受検案内はすでに渡していますので、再度家で確認しましょう。

万が一、発熱したり、不慮の事故などで受検ができない場合は、あわてずに中学校に連絡してください。

私立入試の時に、引率の先生のチェックを受けずに勝手に教室に入ったり、集合場所を勘違いして、他の受検生や引率の先生に迷惑をかけたりしている人がいました。

また、上靴や腕時計を持って行くのを忘れた人もいたようです。

今回はそのようなことがないように、寝る前に確認しておきましょう。



入試が終わった翌日に……

入試が終わった翌日は「卒業式練習」「修了式」です。すばらしい卒業証書授与式を全員でつくるために、3つの構え(物構え・身構え・心構え)で準備しましょう。

《中学校生活最後の日程》

月日曜	1限	2限	3限	4限	持参物
3月8日 (水)	卒業式練習		学活	昼食・下校 (昼食あり)	
3月9日 (木)	修了式・同窓会入会式 卒業式合同練習			連絡・下校 (昼食なし)	卒業アルバム・記念品などを 持ち帰ります。
3月10日 (金)	第43回 卒業証書授与 (卒業生入場 09:55)			最後の学活	登校時間 8:40~9:10 ※必ず手ぶらでくること。

「立つ鳥あとを濁さず」という諺があります。渡り鳥が今まで生活していた土地をきれいにして、次の土地に旅立つという習慣からうまれた諺です。

中学校生活最後の3日間、その生徒がどのように過ごすかで、その人柄や心があらわれることがあります。先生もこれまでに様々な経験をしてきました。その1つが次のことです。

……公立入試が終わった翌日、用事があって〇〇先生を訪ねたところ、〇〇先生が眉を扱った生徒を指導していました。

指導が終わった後、彼は深いため息をついて、こんなことを話していました。

「I先生、結局自分は生徒にとって「入試の手続きさえすればいいだけの道具」にすぎなかったのでしょうか。自分が今まで頑張ってきたことは何だったんだろう、悲しいです。」

この生徒は「入試さえ終わればあとは何をやってもいいんだ」という自分勝手な考えや行いが、今まで自分の進路実現のために、相談に乗ったり励ましてくださっていた担任の先生の心を傷つけて踏みにじったことがわからなかったのでしょうか。

これまで何度も話してきたように、受検・進路は「自分だけのこと」ではありません。お家の方や色々な人の手助けがあって受検できるのです。

お家の方は今日まで、皆さんが受検に向けて頑張れるように、体調面に気を配ってくださったことでしょう。温かい食事や塾などの送り迎え、遅くまでの進路の話し合いなど、毎日いろいろとして下さったことを「親だから当たり前」と思っははいけません。

進路の東先生は、皆さんの授業中や休み時間の合間を縫って、県内のあらゆる高校を走り回り、受検に必要な手続きをして下さいました。東先生のミス一つない細かな心配りが、君たちの私立高校合格につながり、明日安心して公立高校を受検できるのです。

「入試さえ終わればあとは何をやってもいい」勝手な行動は、あなたの仲間を、応援していた全ての人の心を深く傷つける行動です。

最後の3日間、あなたの人柄や心が「あとを濁さない」ものであるよう、よく考えて過ごして欲しいと思います。

